

金澤名勝題詠集

附金澤文庫略考

全

特別  
ル 3  
8617  
93







文  
中



好句

好句  
好句





金澤名勝題咏小引

我鄉金澤之為地。山環水聯。風景絕佳。昔有明僧心越歸化住此地。擬滿湘勝目。有八景之說。而後二百餘年。游者接踵。而旗亭題壁。可見者翻數矣。於是更乞當世名流。詩歌以鼓吹其勝。自今而後。隨得隨錄。將陸續印行。冀四方文雅之士。移玉趾以寄佳篇焉。泚荒巖窮。



翹然望之。丁亥春分節

柳邊漁字佐藤忠識



鴛梁居士齋蘇造書



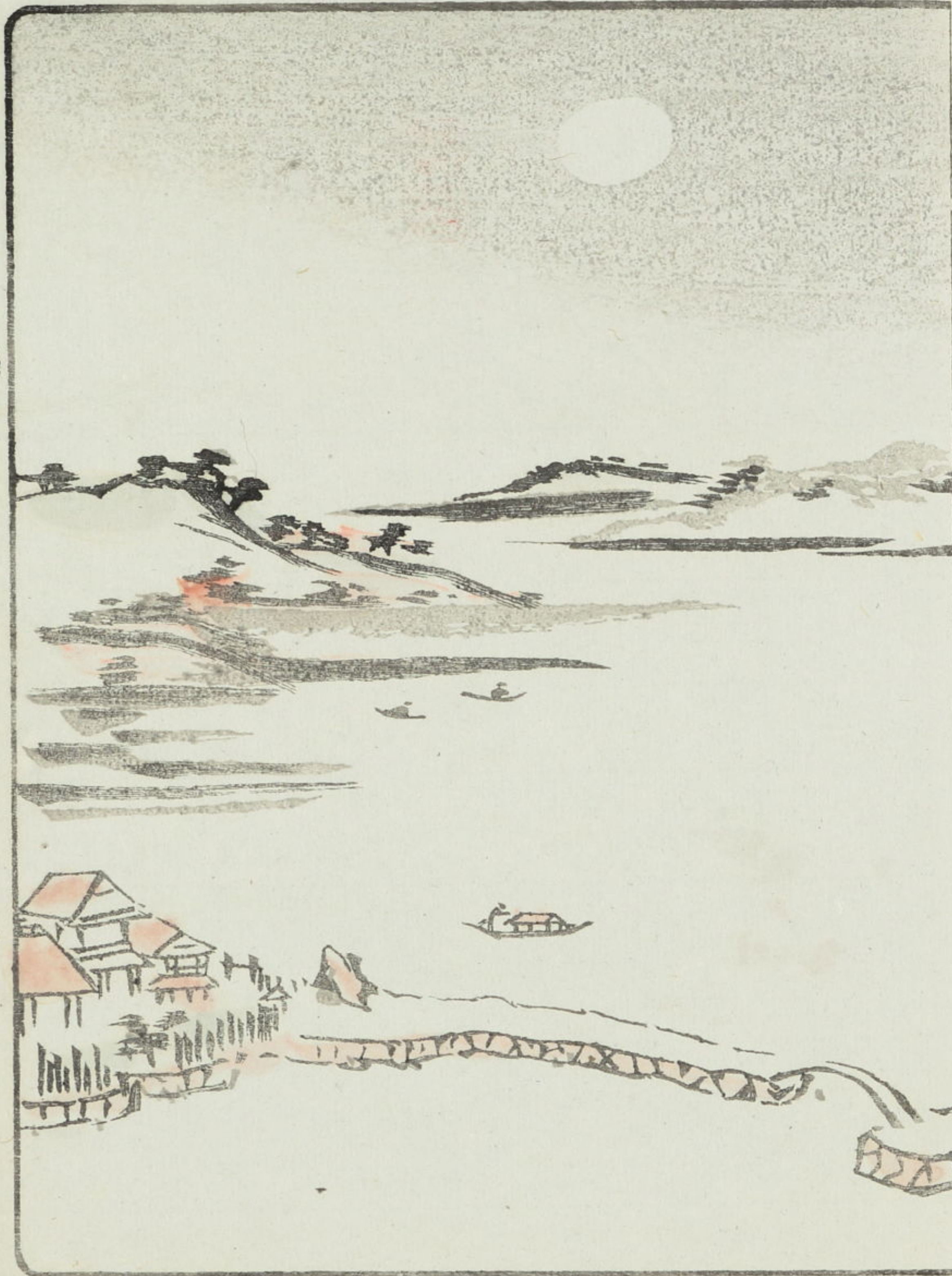
皇清  
勝蹟詠



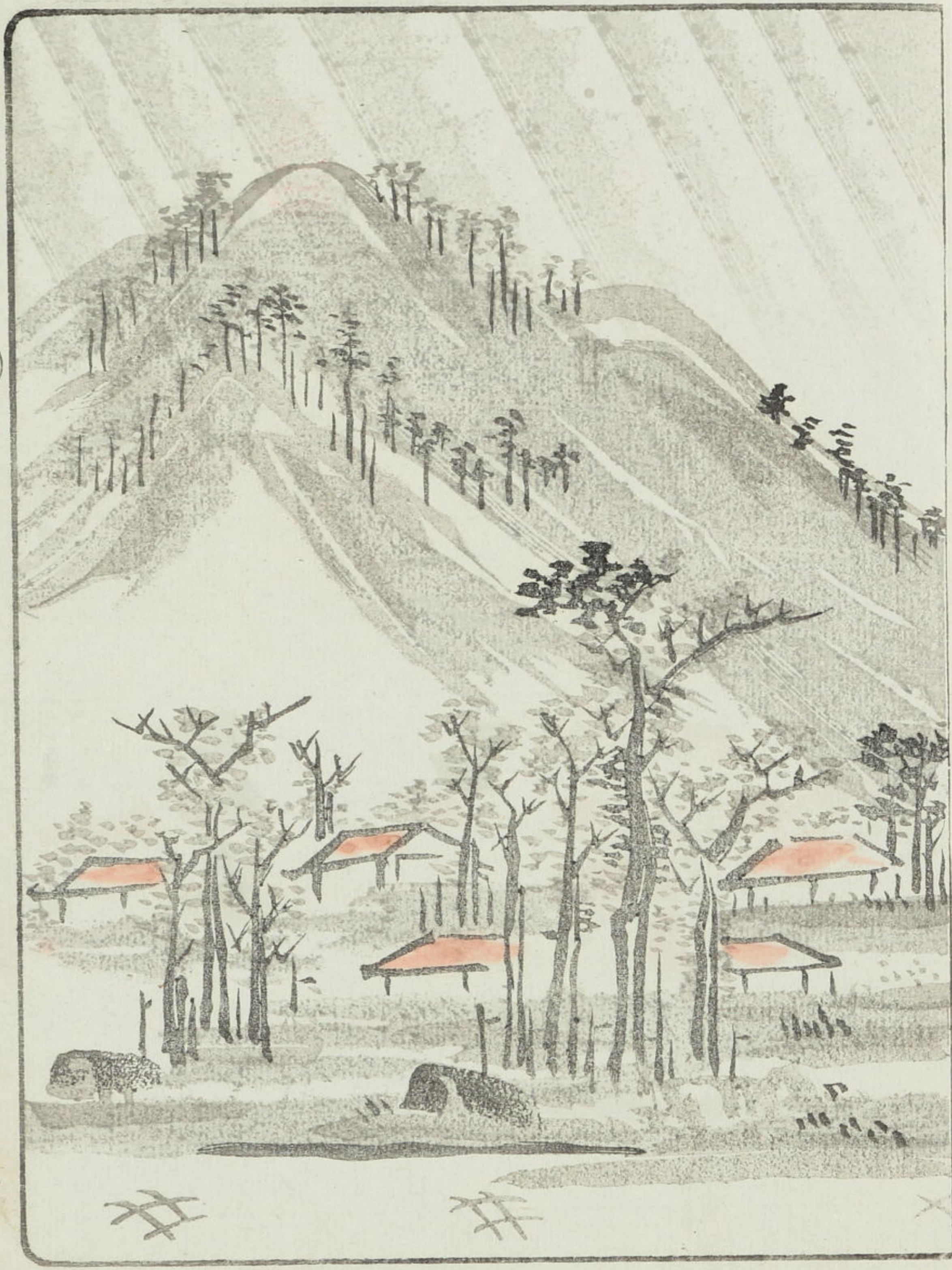
河崎晴嵐  
沖長









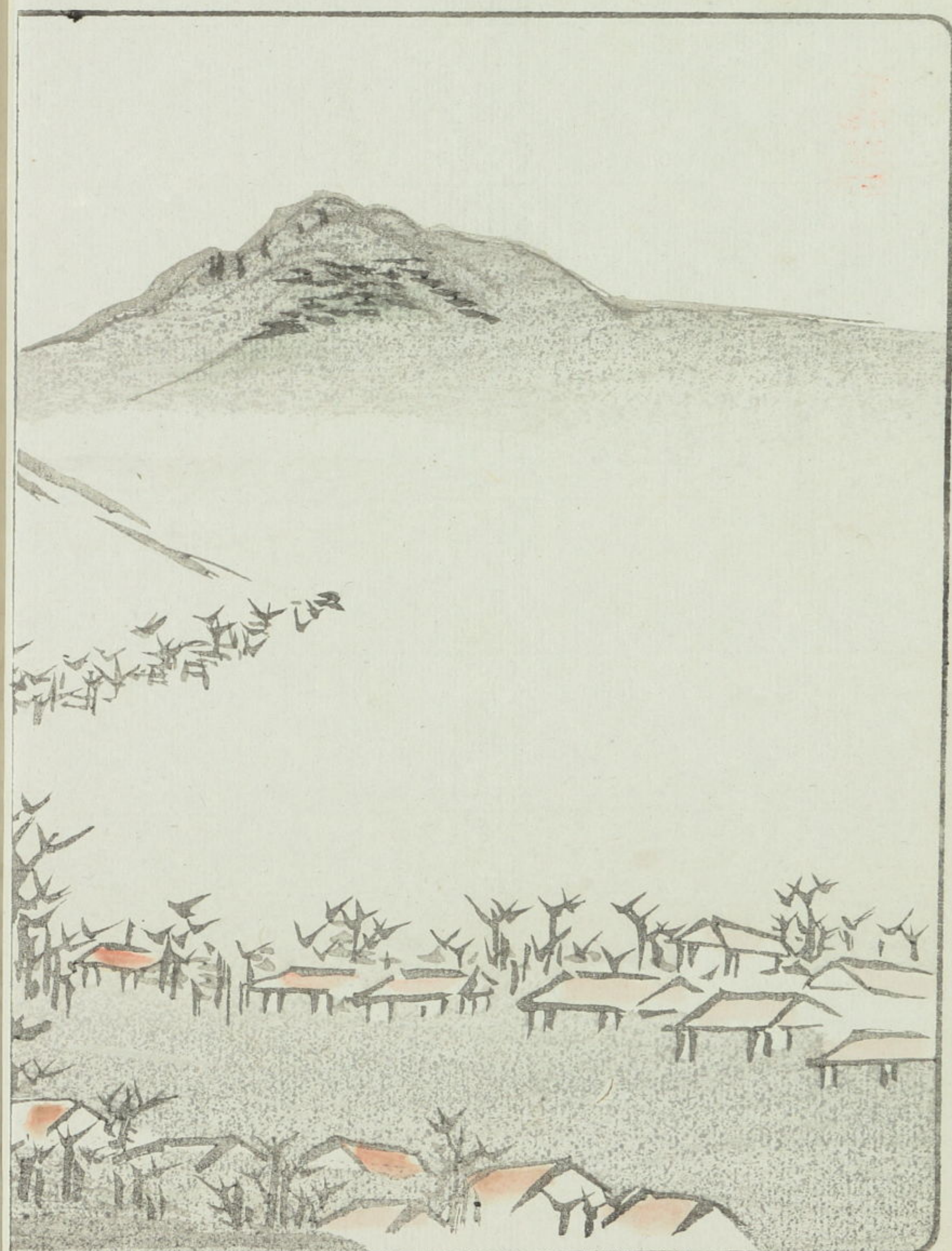


小泉  
景白  
汁長  
印

















冲长

夕照

野嶋







金澤名勝題詠集

柳邊

佐藤忠

錄

能見堂八景

心越禪師

杜多東  
明人歸化

洲埼晴嵐

滔滔驟浪斂餘暉。滾滾狂波遠竹扉。市  
後日斜人靜悄。行雲流水自依依。

瀨戶秋月

清瀨涓涓不繫舟。風傳虛籟正中秋。廣  
寒桂子香飄處。共看冰輪鳴際浮。



小泉夜雨

暮雨淒涼夢亦驚。甘泉汨汨聽分明。蓬  
總淹塞無相識。腸斷君山錢笛聲。

乙 艫歸帆

朝宗萬派速連天。無恙輕帆掛日邊。歎  
乃高歌落雲外。依稀數艇到洲前。

稱名晚鐘

夙昔名藍成覺地。華鐘晚扣若鯨音。幽  
明聞者咸生悟。一片迷離祇樹林。  
平瀉落雁

列陣冲冥堪入塞。荻蘆蕭瑟幾成隊。飛  
鳴宿食恁棲遲。千里傳書誰不愛。

野島夕照

獨羨漁翁是作家。持竿盪漿日西斜。網  
得魚來沽酒飲。披蓑高卧任堪誇。

丙 川暮雪

廣陌長堤竟沒潛。奇花六出似鋪氈。渾  
然玉砌山河色。遍覆危峰露此尖。  
金澤八景

丁 野丹山

遠景土佐人



潮退巖痕出。山遙秋影涵。漁舟收釣去。晴渚隔浮嵐。

瀨戶秋月

秋天收夕煙。遠翠細如髮。忽看金蛇趨。長波展大月。

小泉夜雨

風景似瀟湘。雲低接遠浦。夜深人未眠。篷底卧聽雨。乙艫歸帆。

杳渺似無際。遠山斜日銜。海雲連浪處。望久認歸帆。

稱名晚鐘

地偏幽絕境。誰共問前蹤。春寺人來少。風花翻暮鐘。

平瀉落雁

海國秋風至。春光夢耶幻。蘆花近夕陽。洲渚落孤雁。

野島夕照

當年名畫師。投筆入玄妙。我欲吊遺蹤。



松林澹殘照。

內川暮雪

溪山合復環。四境自清絕。長駐暮天明。平川帶晴雪。

金澤八勝次丁野丹山韵

巖谷古梅 修近江人

洲埼晴嵐

一帶萬松翠。媚波明鏡涵。乾雪飛飛白。輕鷗呼夕嵐。

瀨戶秋月

太虛無點埃。清氣爽毛髮。可以證吾心。玲瓏一輪月。

小泉夜雨

漁火暗無光。夜雲低遠浦。孤蓬人不眠。靜聽瀟瀟雨。

乙艦歸帆

餘霞明散綺。殘日寒潭銜。紫山相映白。飛鷺起歸帆。

稱名晚鐘

來訪古梵刹。高僧憶遺蹤。使人發深省。



一杵夕陽鐘。

平瀉落雁

造化果何心。看來弄變幻。雲烟字字奇。行亂投沙雁。

野嶋夕照

把酒倚高樓。大觥呼絕妙。八勝歸雙眼。一洲明夕照。

內川暮雪

一白沒江山。纖塵望中絕。漁翁收釣竿。手拂滿蓑雪。

分詠金澤八勝

洲崎晴嵐

矢土錦山勝之伊勢人

帆光白點去來潮。帘影青連南北橋。吹笛一聲和款乃。浮嵐彩翠暮迢迢。

瀨戶秋月

岡本黃石迪西京人

殘雲斂盡夜光幽。十里清光白露秋。風攪蘆花披復合。一痕新月逗前洲。小泉夜雨



陰雲漠漠暗汀洲。火影依微夜泊舟。一洗錦城歌吹耳。蘋風蘆雨古村秋。  
乙 艦歸帆 大島怡齋 正人 越前人

細川十洲 潤土佐人

乙 艦果見片帆歸。日暮波光冷濕衣。風急蜻蜒不如意。翩然觸我帽檐飛。  
稱名晚鐘

大給龜崖 恒東京人

泮宮趾古寄禪林。無復當年絃誦音。九

代榮華如一夢。白雲埋恨暮鐘沈。

平瀉落雁

神波即山 桓尾張人

冷雲如夢罩菰蘆。斤鹵殘陽澹欲無。破墨斜行不成字。一羣飛下一群呼。

野島夕照

日下部鳴鶴 東作東京人

流水小橋江岸迴。萋萋芳草綠成堆。漁翁曝網沙村外。游舫猶追夕照來。  
內川暮雪



那邊有樹那邊家。飛雪和風暮色加。只  
是潺湲埋不了。白糝糊裏一川斜。

横田竹泉 香苗近江人

題咏和歌

洲崎晴嵐

無性居士 通稱京極兵庫  
年代不詳

あはれをよき海の子に影をうつさるる阿比の市人

瀬戸秋月

よる波は瀬戸の秋風を吹つけてあまの津よさをめぐる歌

小泉夜雨

からまゝの雨と袖をけくたぬる江の音を思ふ

乙艦帰帆

津津舟おのゝにみれども旗たをよの浦はゆめゆめ

稱名晚鐘

とらふりおの忠名あはる津の音かゝるるあひのし

平瀧夜雁

泣とむる志砂よとくは教そて一かの平瀧よるるね

野島夕照

夕日さす野島は浦よわすらぬあまの津よさをめぐる歌



内川春雪

本居あはれむのたふもよしのあまのあまの  
あまの歌も心越禪師の詩も何くも  
付らたもや、およぶる人

沙崎晴冬

間宮小十郎 東家人

宵よのをいし沙崎のねありまののねをあれは  
細川 潤 土佐人

磯山のねたねはなまらうほやあまのまののねり  
中村 秋香 静岡人

瀬戸秋月

中村 秋香 静岡人

ゆきぬりし河津のねるる新くそそ瀬戸の江の月照る

細川 潤

浦合も運のたさし秋のよ月をいし海を瀬戸の角松

小泉夜二

小中村清矩 東京人

あまのねたねはなまらうほやあまのまののねり

細川 潤

つらとあまのねをいし海を瀬戸の江の月照る

乙橋歸帆

黒川真頼 東京人

よなあまのねはなまらうほやあまのまののねり

細川 潤



大帆あつた船もあつたにふちから河もあつたのちあつた

稱名晚鐘

佐木弘綱 三喜山人

婦こらの流をいふ本公あつたことた歌あり入りの鐘

細川潤

すあふしをいふちあつた林をいふおのうぬ

平瀧流雁

松木重欵 東京人

たごあつたこといふおのうぬをいふおのうぬ

細川潤

お前のあつたこといふ塩平かこる年あつたこといふおのうぬ

野急夕照

山深典平 和歌山人

名いふ船あつたこといふ塩平かこる年あつたこといふおのうぬ

細川潤

島陰をいふおのうぬをいふおのうぬをいふおのうぬ

内川暮雪

久米粹文 茨城山人

たごあつたこといふおのうぬをいふおのうぬをいふおのうぬ

細川潤

おまてのあつたこといふおのうぬをいふおのうぬをいふおのうぬ



金澤文庫畧考  
 金澤文庫、遺址ハ、武藏久良岐郡金澤稱名寺ノ傍  
 一アリ、今稱シテ文庫ト云、洞門尚存、今稱名寺中ヨリ  
 洞門アリテ、今稱シテ文庫ト云、洞門尚存、今稱名寺中ヨリ  
 今寺中ノ所藏、古圖ニモ亦洞門アリ、今稱名寺中ヨリ  
 阿彌陀院所稱、後ノ切通シ前ノ畑ヲ以テ金澤文  
 庫ノ遺趾ナリトス、此古圖ニ據リタルナレバ、  
 圖ハ元享三年二月廿四日稱名寺第三世湛睿結  
 文庫ハ北條越後守平實時金澤名侍稱所稱其采邑ニ  
 就テ創立スル所ナリ、今考ルニ益シ其邸第ノ近傍  
 在リシナルベシ、  
 關東評定傳ニ、實時建治元年五月六浦ニ籠居ス、  
 依所勞也、金澤ハ六浦同二年十月廿三日於六浦  
 別業卒、年五十六、  
 其別業ノ地ハ未詳ト雖モ、益シ稱名寺ノ境內ナル  
 ヘシ、境內ニ實時及其子顯時其孫貞時ノ墳墓アリ、



稱名寺現ニ實時顯時貞顯貞時四人ノ肖像ヲ藏ス  
 黜然トシテ古色九ナラズ當時名家ノ手ニ成ル知  
 ルベシ其年月款識ヲ欠ク眞ニ惜ムベシ  
 文庫創建ノ歲月未詳ト雖モ庫中ノ書實時貞顯等  
 ノ題署ハ皆建長五年以後ニ係ル即チ建長ノ初年  
 タル疑ナシ而ノ鑣倉兵燹ノ時モ其此地ニ僻在セ  
 ラテ幸ニ烏有ヲ免カレ儒佛典籍朱墨ノ印色  
 ヲ以テ之ヲ分チ殆ント武四年更寫一本藏武藏金  
 澤稱名寺文庫者也トアリ  
 又僧義堂空華集ニ觀金澤藏書而作ルト云題ニ  
 テ玉帳修文講武餘遣人來覓舊藏書牙籤映日窺  
 蚪斗縹帙乘晴走蠹魚地上一篇者不足鄴侯三万  
 欲何如照心古教君家有収在胸中壓五車ノ詩ア  
 リ  
 又太田道灌慕京集ニ二月釋典ヲ金澤文庫ニテ  
 行フヨシ三好日向守勝之ノモトヨリ申越ケレ

八隣家梅花ト云フ題ヲ聖供ニ添テ遣レ侍ルト  
 テ  
 春おれや夜々友かきの近き庭遠きも通ふ梅  
 の下風  
 右等ノ書ニ據レハ鎌倉兵燹ノ後モ年久シク尚廢  
 セサリシニ兩上杉ノ亂ヨリ漸ク類廢ニ屬セシナ  
 ルベシ北條氏政ノ金澤文庫本ヲ足利學校ニ寄附  
 セルモ益シ其散亂ヲ惜ム意ニ出テシナルヘシ  
 慶長年録ニ慶長六年六月江戸富士見ノ亭ヘ金  
 澤ノ文庫ヲ御移レサレ御文庫御建立ナリ云  
 々又古筆ノ書物ハ多分北條九代ノ時分金澤ニ  
 納申候書物ナリトアリ  
 此ニ據レハ兵亂ノ久シキ文庫漸ク類廢ニ屬ス  
 故ニ徳川氏其殘本ヲ採収セシナルベシ然レハ文  
 庫全ク廢セシハ慶長年間タル明ナリ今稱名寺  
 現存スル廢セシ五車注文選十二卷ノ古寫本ハ北條氏  
 政ニ現存スル學校ニ寄附セシ金澤文庫本ト全ク相  
 同



右ハ近藤心齋ノ金澤文庫考及稱名寺所藏ノ古  
記等ニ據リ、金澤文庫ノ顛末ヲ畧  
記ス、  
佐藤忠識

明治二十年七月六日御届  
同年同月 出版

定價金拾八錢

著者  
兼出版人

神奈川縣士族

佐藤忠藏



武藏久良岐郡三分村  
千六百六十一番地

第二編三編

副刻



發兌人

北畠茂兵衛

東京日本橋區通志丁目十五番地

吉川伊兵衛

神奈川縣下橫濱區弁天通志丁目

東屋安右衛門

全縣下金澤

千代本茂右衛門

全縣下金澤

全 全 全



